

図表 3-1-A-5 クラス数と保育室数の平均、最小値、最大値

	クラス数			保育室数		
	平均	最小値	最大値	平均	最小値	最大値
0歳児	1.0	0	3	1.1	0	5
1歳児	1.1	0	4	1.2	0	4
2歳児	1.1	0	4	1.2	0.5	4
3歳児	1.2	1	4	1.2	0.5	4
4歳児	1.1	1	3	1.2	0.5	4
5歳児	1.1	0	3	1.1	1	5
全体	5.6	0	16	5.7	1	16

図表 3-1-A-6 クラスと保育室の編成状況 (%)

	クラス		保育室	
	実数	割合	実数	割合
年齢ごと	174	39.7	172	39.3
異年齢混合	257	58.7	260	59.4
不明(無回答)	7	1.6	6	1.4

図表 3-1-A-7 クラスの編成状況 (実数と割合)

編成	実数	割合(%)	編成	実数	割合(%)
01, 12	1	0.2	01, 23, 34, 5,	1	0.2
0, 12, 23, 34	1	0.2	0, 1, 12, 2, 3, 4, 5,	1	0.2
01, 2, 3, 4	2	0.5	0, 12, 34, 5,	2	0.5
01, 2, 34, 5,	1	0.2	12, 3, 45,	2	0.5
0, 1, 2, 34	1	0.2	12, 345,,	2	0.5
01, 2, 3, 4, 5,	55	12.6	0, 1, 2, 3, 34, 45,	1	0.2
01, 12, 2, 3, 34	1	0.2	01, 12, 3, 45,	2	0.5
01, 12, 23, 34,	1	0.2	01, 2, 3, 45,	8	1.8
012, 3, 45,	5	1.1	01, 1, 2, 3, 4, 5,	1	0.2
01, 2, 345,	14	3.2	12, 34, 5,	4	0.9
12, 3, 4, 5,	9	2.1	0, 1, 23, 4, 5,	1	0.2
1, 2, 3, 45,	2	0.5	0, 12, 23, 34, 5,	1	0.2
23, 45,	2	0.5	0, 01, 1, 12, 3, 34, 5,	1	0.2
0, 12, 3, 45,	5	1.1	2, 34, 5,	1	0.2
0, 1, 2, 3, 45,	14	3.2	12345,	9	2.1
012, 3, 4, 5,	11	2.5	12, 34	1	0.2
01, 23, 4, 5,	2	0.5	01, 2, 34, 5,,	1	0.2
34, 5,	1	0.2	0, 1, 2, 3, 4, 5,	5	1.1
0, 1, 12, 2, 34, 45,	1	0.2	0, 3, 45,	1	0.2
1, 34, 5,	1	0.2	01, 12, 34, 45,	2	0.5
0, 12, 3, 4, 5,	14	3.2	01, 12, 34, 5,	1	0.2
0, 1, 2, 345,	14	3.2	0, 12, 2, 3, 4, 5,	1	0.2
0, 1, 3, 4, 5,	1	0.2	01, 2, 23, 45,	1	0.2
012, 45,	1	0.2	2345,	1	0.2
12, 345,	1	0.2	12, 23, 45,	1	0.2
01, 12, 2, 3, 4, 5,	2	0.5	01, 12, 3, 4, 5,	3	0.7
0, 1, 2, 34, 45,	1	0.2	0, 01, 1, 2, 3, 4, 5,	1	0.2
012, 34, 5,	3	0.7	01, 2, 3, 4, 5,,	1	0.2
0, 1, 12, 3, 4, 5,	1	0.2	12, 34, 45,	1	0.2
01, 45,	1	0.2	0, 1, 2, 3, 4, 45,, 5,	1	0.2
0, 12, 345,	6	1.4	01, 12, 23, 4, 5,	2	0.5
01, 23, 45,	8	1.8	01, 12, 23, 34, 5,	1	0.2
01, 12, 2, 23, 3, 4, 5,	1	0.2	01, 1, 12, 2, 3, 4, 5,	1	0.2
1, 2, 34, 5,	1	0.2	01, 2, 34, 45,	1	0.2
0, 12, 23, 45,	1	0.2	01, 12, 23, 45,	1	0.2
0, 01, 12, 3, 34, 4, 5,	1	0.2			
1, 23, 45,	2	0.5	欠測値	184	42.0

注) 数字がないクラスは、当該年齢の子どもがいないことを示している

公立保育所と私立保育所について、図表 3-1-A-9 は定員、在所児数、保育士数、クラス数、保育室数の平均とその差、図表 3-1-A-10 は開所時間と閉所時間の平均とその差を示したものである。不等号を示したところには5%水準で有意な差が

見られた。定員、在所児数、保育士数は私立保育所の方が多く、特に低年齢で顕著であった。開所時間は公立保育所の方が遅く、閉所時間は公立保育所の方が早かった。

図表 3-1-A-8 保育室の編成状況 (実数と割合)

編成	実数	割合 (%)	編成	実数	割合 (%)
01, 12	1	0.2	1, 23, 45,	3	0.7
0, 1, 2, 34	2	0.5	01, 2, 3, 45,	11	2.5
01, 2, 34	1	0.2	0, 1, 12, 2, 3, 4, 5,	1	0.2
01, 2, 34, 5,	1	0.2	0, 12, 34, 5,	2	0.5
01, 2, ,	1	0.2	12, 3, 45,	2	0.5
01, 2, 3, 4, 5,	62	14.2	12345,	3	0.7
01, 2, 3, 4	1	0.2	0, 1, 2, 3, 34, 45,	1	0.2
01, 12, 2, 3, 34	1	0.2	01, 12, 3, 45,	2	0.5
01, 12, 23, 34	1	0.2	0, 1, 2, 34, 5,	1	0.2
012, 3, 45,	5	1.1	01, 1, 2, 3, 4, 5,	1	0.2
01, 2, 345,	12	2.7	12, 34, 5,	4	0.9
12, 3, 4, 5,	11	2.5	0, 12, 23, 34, 45,	1	0.2
1, 2, 3, 45,	1	0.2	0, 01, 1, 12, 3, 34, 5,	1	0.2
012, 3, 4, 5,	11	2.5	01, 12, 23, 345,	1	0.2
0, 12, 3, 45,	7	1.6	2, 34, 5,	1	0.2
0, 1, 2, 3, 45,	12	2.7	12, 345,	8	1.8
01, 23, 4, 5,	2	0.5	1234,	1	0.2
34, 5,	1	0.2	01, 2, 34, 5, ,	1	0.2
0, 1, 12, 2, 34, 45,	1	0.2	0, 1, 2, 3, 4, 5,	4	0.9
1, 34, 5,	1	0.2	01, 12, 34, 45,	2	0.5
0, 12, 3, 4, 5,	13	3.0	01, 12, 23, 34, 5,	2	0.5
0, 1, 2, 345,	13	3.0	0, 12, 2, 3, 4, 5,	1	0.2
0, 12, 45,	1	0.2	01, 2, 23, 45,	1	0.2
12, 345, ,	1	0.2	2, 345,	2	0.5
01, 12, 2, 3, 4, 5,	2	0.5	12, 23, 45,	1	0.2
0, 1, 2, 34, 45,	2	0.5	01, 12, 3, 4, 5,	2	0.5
012, 34, 5,	3	0.7	0, 01, 1, 2, 3, 4, 5,	2	0.5
0, 1, 12, 3, 4, 5,	1	0.2	12, 34, 45,	1	0.2
01, 45,	1	0.2	0, 1, 2, 3, 4, 45, , 5,	1	0.2
0, 12, 345,	4	0.9	01, 12, 23, 4, 5,	2	0.5
01, 23, 45,	10	2.3	2, 3, 45,	1	0.2
01, 12, 2, 23, 3, 4, 5,	1	0.2	01, 1, 12, 2, 3, 4, 5,	1	0.2
0, 12, 23, 345,	1	0.2	01, 12, 23, 45,	1	0.2
0, 01, 12, 2, 3, 34, 4, 5,	1	0.2	欠測値	180	41.1

注) 数字がないクラスは、当該年齢の子どもがいないことを示している

図表 3-1-A-9 公立保育所と私立保育所の定員等の差

	定員			在所児数			保育士数			クラス数			保育室数		
	公立	私立	差	公立	私立	差	公立	私立	差	公立	私立	差	公立	私立	差
0歳	5.9	8.3	<	4.5	7.4	<	2.2	3.2	<	1.0	1.0		1.1	1.1	
1歳	11.4	14.5	<	10.3	15.2	<	2.7	3.6	<	1.1	1.2		1.2	1.2	
2歳	14.9	17.6	<	13.7	18.5	<	2.9	3.4	<	1.1	1.1		1.2	1.2	
3歳	21.1	21.4		18.4	21.4	<	1.8	1.9	<	1.2	1.1		1.2	1.2	
4歳	25.6	23.4		20.1	21.9	<	1.6	1.6		1.2	1.1		1.2	1.1	
5歳	25.3	23.8		20.6	22.9	<	1.5	1.5		1.1	1.1		1.1	1.1	
全数	94.8	104.5		84.2	104.1	<	10.4	13.9	<	5.3	5.8	<	5.4	6.0	<

図表 3-1-A-10 公立保育所と私立保育所の開所時間、閉所時間の差

	公立		私立		差
	時	分	時	分	
開所	7	25.4	7	12.5	>
閉所	18	32.6	19	6.4	<

(2) 保育室の物的環境の実態

回収された調査票を保育士の担当年齢別にみると、0歳児担当用は772票、1歳児と2歳児担当用はどちらも917票、3歳児担当用は427票、4歳児担当用は425票、5歳児担当用は419票であった。

図表 3-1-A-5 に見るように、保育室数の平均はおおむね1であり、3歳未満児については各年齢3名の保育士に調査票を配布しているが、同じ保育室で子どもを担当していることが予想される。そこで保育室の物的環境の実態についてたずねる設問については、各年齢で一人の回答だけを採用した。採用に当たっては、すべての調査対象保育所で、入力時に最初に入力された保育者の調査票を採用した。

図表 3-1-A-11 は、この保育室の床の上に置いてある備品（いつも床の上に置いてあるもの）には何がありますかとして、該当する者すべてに○を付けてもらった結果をである（複数回答を認めている）。先ず各年齢の保育室でそれぞれの備品が選択された割合（以下、選択率）を算出し、その平均値の高い順に並び替えている。

最も平均値が高かったのは、「14. 机・椅子

（ベビー用ラックを含む）」であり、80%近い値であった。8割程度の保育室にはこれがあるといえる。次に多かったのは「3. 子どもの個人用ロッカー」であり、4分の3の保育室にこれがあった。50%以上の値の備品には、「7. 遊具の収納棚」、「15. ピアノ・オルガン」があった。

なお年齢差を検定したところ、「12. 大人用のロッカー」でのみ有意差がなく、他はすべて5%水準以上で有意差があった。

児童福祉施設最低基準第32条の第2号には乳児室、第3号にはほふく室の子ども1人当たりの面積が指定されており、第4号に「乳児室又はほふく室には、保育に必要な用具を備えること」とある。また第6号には保育室又は遊戯室の子ども1人当たりの面積が指定されており、第7号には「保育室又は遊戯室には、保育に必要な用具を備えること」とある。面積の指定の後に「必要な用具を備えること」とあることから、それらが床の上にあることで面積が狭められることを認めているといえる。これらの備品の具体的な設置面積については以下で述べるが、備品があることで指定された面積が狭められていることが現実であるといえる。

図表 3-1-A-11 床の上に置いてある備品の選択率 (%)

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	平均値
14. 机・椅子 (ベビー用ラックを含む)	71.2	66.8	79.3	86.9	84.5	87.1	79.3
3. 子どもの個人用ロッカー	68.5	72.4	75.8	78.9	76.2	78.0	75.0
7. 遊具の収納棚	59.5	58.0	64.8	66.5	65.4	68.4	63.8
15. ピアノ・オルガン	21.1	34.3	56.8	81.5	85.4	89.7	61.5
11. 大人用の机	30.1	26.7	34.5	47.5	50.8	54.8	40.7
6. 教材入れ	22.2	29.0	41.8	45.9	49.2	56.2	40.7
5. タオルかけ	13.4	23.0	35.9	38.9	37.4	37.6	31.0
2. 布団入れ	30.4	28.8	30.5	22.3	20.9	19.9	25.5
1. タンス	36.2	37.1	27.0	17.6	14.8	14.1	24.5
16. テレビ	15.6	20.2	25.1	22.7	24.0	22.5	21.7
4. ベッド	76.2	26.2	8.9	1.2	1.2	1.0	19.1
13. 掃除道具入れ	11.8	10.2	14.3	18.5	17.9	18.7	15.2
8. 連絡ボード台	10.7	11.1	15.0	13.1	14.8	19.6	14.1
12. 大人用のロッカー	10.4	8.6	9.4	8.2	11.8	10.8	9.9
9. おむつ交換台	34.0	10.9	2.1	0.0	0.2	0.0	7.9
10. 汚物などを入れる棚	14.5	11.6	8.9	0.9	1.7	0.2	6.3
17. その他	20.0	10.0	18.8	19.9	19.3	17.9	17.7

図表 3-1-A-12 は、最左列の各活動を行うのは、この保育室が多いかどうかをたずねた際に、「主としてこの保育室を利用している」が選ばれた割合を示したものである。(1)食事、(4)衣服の着脱、(6)遊び、(7)設定保育（主活動）等では9割以上の保育所がこの保育室を主として利用していた。年齢による差を検定したところ、(7)設定保育(主活動)等以外では、いずれも5%水準以上で有意差があった。

図表 3-1-A-13 は、「主としてこの保育室を利用している」を選んだ保育士に、その利用の仕方を

たずねた結果である。「a. 区切らず使用」と「b. 区切って使用」という2つの選択肢を用意した際、「a. 区切らず使用」が選ばれた割合(%)を示したものである。(4)衣服の着脱では80%、(3)排泄では30%が「区切らず使用」しており、活動による差が顕著であった。年齢による違いを調べたところ、(3)排泄については年齢差が有意ではなかったが、他の活動ではすべて5%水準以上で有意であった。

図表 3-1-A-12 各活動に対して「主としてこの保育室を利用している」が選ばれた割合 (%)

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	平均値
(1) 食事	94.4	93.8	93.9	89.2	88.2	88.7	91.4
(2) 睡眠	95.8	93.9	84.2	62.9	55.7	54.9	74.6
(3) 排泄	84.8	79.1	49.5	24.2	18.2	17.5	45.5
(4) 衣服の着脱	97.8	97.9	97.9	94.5	94.5	93.2	95.9
(5) 清潔	57.1	63.1	57.3	51.4	53.8	51.1	55.6
(6) 遊び	95.0	93.9	93.2	88.9	89.6	90.1	91.8
(7) 設定保育 (主活動)等	92.4	93.8	94.5	96.3	95.7	95.8	94.7

図表 3-1-A-13 「主としてこの保育室を利用」を選んだ中で、「区切って使用」が選ばれた割合 (%)

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	平均値
(1) 食事	52.4	51.1	73.8	87.1	88.7	88.0	73.5
(2) 睡眠	50.2	50.6	71.7	88.7	84.0	83.9	71.5
(3) 排泄	38.8	31.0	26.6	30.8	32.1	20.8	30.0
(4) 衣服の着脱	76.3	70.3	80.4	85.8	86.8	83.1	80.4
(5) 清潔	28.9	43.5	57.4	80.8	86.0	87.9	64.1
(6) 遊び	65.7	67.1	73.2	77.4	76.1	70.9	71.7
(7) 設定保育 (主活動)等	62.2	59.2	70.8	86.8	86.6	84.6	75.0

(3) 保育室の環境に対する保育士の認知

以下は、各年齢で回収したすべての調査票の分析である。

「保育をしていて、この保育室が狭い（もっと広い方がよい）と感じる時間帯（活動）はありますか」として、「1. はい」か「2. いいえ」で答えてもらった結果が図表 3-1-A-14 の第1行目である。平均して 53.4%、過半数の保育士が「1. ある」を選んだ（年齢差は有意ではなかった）。

次に「1. ある」を選んだ保育士に、そのように感じる時間帯すべてに○を付けてもらった。その選択率が以下の数値である。平均値で見ても、最も高い値は、「4. 設定保育（主活動）等」で 53.2%であった。半分強の保育士が設定保育をするには、この保育室は狭いと感じていたことになる。しかしながら、この値は、先に述べた「狭いと感じる時間帯」が「ある」と答えたものに対する結果である。すなわち、約 4 分の 1 の保育士だけが、設定保育をするには、この保育室は狭いと感じたことがあったということである。現実的な目で見ると、それほど多いとはいえない。

年齢差を調べると、「2. 午前の遊び」「3. 午後の遊び」および「11. 降園（所）時の引き渡し」では有意差がなく、他の時間帯では 5%以上で有意差がみられた。先述の「4. 設定保育（主活動）等」では、年齢が上がるにつれて、狭いと感じる時間帯として選ばれた割合が高くなっていった。

年齢差について詳しく見ると、年齢が上がると選択率が増加する時間帯（活動）には上記の「4. 設定保育(主活動)等」と「12. その他」が該当した。逆に選択率が減少する時間帯(活動)には、「5. 食事(授乳を含む)」「9. 清潔(沐浴、清拭)」があった。一旦増加し、その後減少する時間帯(活動)には、「6. 排泄(オムツ交換を含む)」「8. 着脱」「10. 延長保育時」があった。これら以外はやや不規則な変化であり、「1. 登園(所)時の受け入れ」は3歳までは安定しているが、4歳、5歳と減少した。「7. 睡眠」は0歳から1歳にかけて減少するが、1歳から2歳にかけて増加し、その後再び減少した。このような年齢による変化は、時間帯(活動)によって必要な部屋の広さが異なることを示唆するものである。

図表 3-1-A-14 この保育室が狭いと感じる時間帯に対する選択率 (%)

狭いと感じる時間帯の有無		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	平均値
		43.3	48.6	57.4	55.9	59.1	56.3	53.4
狭いと感じる時間帯	1. 登園(所)時の受け入れ	10.4	10.9	11.8	10.2	6.1	3.5	8.8
	2. 午前の遊び	54.3	47.9	48.0	50.0	44.5	44.8	48.3
	3. 午後の遊び	37.8	29.4	30.4	30.9	35.2	33.6	32.9
	4. 設定保育(主活動)等	39.0	47.5	53.0	54.7	63.2	62.1	53.2
	5. 食事(授乳を含む)	44.2	40.1	35.0	38.1	37.7	29.3	37.4
	6. 排泄(オムツ交換を含む)	19.2	27.6	21.7	5.9	3.6	4.7	13.8
	7. 睡眠	50.6	33.3	47.2	43.2	38.5	32.8	40.9
	8. 着脱	7.0	14.8	20.7	24.6	22.3	16.0	17.6
	9. 清潔(沐浴、清拭等)	14.0	11.8	10.4	5.5	4.1	4.3	8.4
	10. 延長保育時	5.8	11.1	11.6	7.2	7.7	3.9	7.9
	11. 降園(所)時の引き渡し	4.3	6.7	6.6	5.9	4.9	2.2	5.1
	12. その他	3.1	2.8	2.7	3.8	5.7	6.9	4.2

図表 3-1-A-15 は、「この保育室が今より広くなるとすれば、子どもや保育士の行動にどのような変化が生じると思いますか」として、各項目について「今よりも以下の文のようになる：+1」「今と変わらない：0」「むしろ以下の文とは逆の結果となる：-1」から選んでもらった結果について、各年齢で選択された割合を平均した値を示したものである。選択肢は3つなので、ランダムに選んだ場合は 33.3%となる。そこで 40%以上の値をゴチック体で示した。全体として「今と変わらない」が多いことが読み取れる。「文のようになる」が 40%以上の項目は、「4. 身体的活動がしやすい」「2. 睡眠など適切な休息が取れる」「14. 子ども同士のトラブルが少なくなる」であった。

部屋が広くなっても、子どもの行動に対してはあまり変わらないと言えよう。

次に検定を行い、5%水準で有意差がなかったところに「ns」とつけた。16項目中、7項目では有意差はなかった。

有意な年齢差が見られた項目について、年齢ごとに各選択肢が選ばれた割合を示したものが図表 3-1-A-16 である。「4. 身体的活動がしやすい」「10. 集中して遊ぶようになる」「11. 怪我が少なくなる」「12. 子どもが疲れにくくなる」「13. 子ども同士の関わりが多くなる」「14. 子ども同士のトラブルが少なくなる」では、0歳から2歳にかけて「文のようになる」の選択率が増加した。「2. 睡眠など適切な休息が取れる」では0歳から1歳にかけて「文のようになる」が減少し、1歳から2歳にかけて再び増加した。「8. 情緒が安定する」では0歳から4歳まで「文のようになる」が増加するが、4歳から5歳にかけて減少した。「9. 機嫌が良くなる」では2歳から3歳にかけて「文のようになる」が減少した。

以上の結果から、部屋が広がることの子どもの行動に対する影響は、年少児で顕著であることが示唆される。

図表 3-1-A-15 部屋が今より広くなった場合の子どもの行動に対する選択率の平均 (%)

子どもの行動	文のようになる	今と変わらない	文とは逆の結果	年齢差
1. 食事を楽しむようになる	18	77	4	ns
2. 睡眠など適切な休息をとれる	41	57	3	
3. 清潔を保つ行動が増える	22	75	3	ns
4. 身体的活動がしやすい	80	19	1	
5. 聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える	35	63	2	ns
6. 発声、発語、会話が増える	13	83	5	ns
7. 周囲の人やものに興味・関心をもつ	25	71	4	ns
8. 情緒が安定する	32	62	6	
9. 機嫌がよくなる	31	67	2	
10. 集中して遊ぶようになる	36	53	11	
11. 怪我が少なくなる	31	52	18	
12. 子どもが疲れにくくなる	15	76	8	
13. 子ども同士の関わりが多くなる	19	74	7	
14. 子ども同士のトラブルが少なくなる	41	52	7	
15. 保育室から出ていかない	21	75	3	ns
16. 保育士への関わりが多くなる	10	83	7	ns

図表 3-1-A-16 年齢別に見た部屋が今より広くなった場合の子どもの行動に対する選択率 (%)

子どもの行動	選択肢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
2. 睡眠など適切な休息をとれる	文のようになる	44	33	40	41	43	43
	今と変わらない	54	63	58	56	55	54
	文とは逆の結果	2	4	2	3	2	3
4. 身体的活動がしやすい	文のようになる	70	75	82	85	84	83
	今と変わらない	28	24	17	15	16	15
	文とは逆の結果	2	2	1	1	1	2
8. 情緒が安定する	文のようになる	29	29	34	33	36	30
	今と変わらない	66	62	61	61	58	63
	文とは逆の結果	6	9	5	6	6	7
9. 機嫌がよくなる	文のようになる	32	31	35	28	32	27
	今と変わらない	66	66	63	69	66	71
	文とは逆の結果	1	3	1	3	2	2
10. 集中して遊ぶようになる	文のようになる	31	32	39	38	39	38
	今と変わらない	61	54	51	50	53	51
	文とは逆の結果	8	14	10	12	9	11
11. 怪我が少なくなる	文のようになる	24	28	31	35	33	32
	今と変わらない	56	51	51	47	50	55
	文とは逆の結果	20	20	18	18	16	14
12. 子どもが疲れにくくなる	文のようになる	13	14	15	16	17	17
	今と変わらない	75	75	76	76	76	78
	文とは逆の結果	12	10	8	9	6	5
13. 子ども同士の関わりが多くなる	文のようになる	13	15	18	22	24	20
	今と変わらない	77	76	75	72	69	75
	文とは逆の結果	10	10	6	6	7	5
14. 子ども同士のトラブルが少なくなる	文のようになる	35	39	44	45	46	39
	今と変わらない	59	52	50	47	48	55
	文とは逆の結果	6	9	6	8	7	6

図表 3-1-A-17 部屋が今より広くなった場合の保育士の行動に対する選択率の平均 (%)

保育士の行動	文のようになる	今と変わらない	文とは逆の結果	年齢差
1. 健康状態の把握がしやすい	7	79	14	ns
2. スキンシップをとりやすい	16	71	13	ns
3. 排泄の援助がしやすい	20	71	10	
4. 食事の援助がしやすい	30	61	9	
5. 睡眠の援助がしやすい	34	60	6	
6. 清潔の援助がしやすい	23	71	6	
7. 着脱の援助がしやすい	29	65	6	
8. 遊びの援助がしやすい	51	43	7	
9. 設定保育(主活動)等がしやすい	63	33	4	
10. 言葉かけがしやすい	10	72	18	ns
11. 保育士同士の会話がしやすい	5	80	15	
12. 温度・湿度の管理がしやすい	15	67	18	
13. 玩具・遊具など物的環境を管理しやすい	51	40	9	
14. 安全管理をしやすい	30	50	20	
15. 保育士のストレスがたまらない	25	71	4	
16. 保育士が疲れにくくなる	15	76	8	ns
17. 保育士の口調が柔らかくなる	13	80	7	ns
18. 保育士が動きやすくなる	41	52	7	
19. 保育室以外で保育する機会が少なくなる	20	76	4	ns

図表 3-1-A-17 は、保育士の行動に対する影響について、図表 3-1-A-15 と同様の分析を行ったものである。40%以上のゴチック体のところを見ると、全体として「今と変わらない」が多いことが読み取れる。「文のようになる」が40%以上の項目は、「8. 遊びの援助がしやすい」「9. 設定保育(主活動)等がしやすい」「13. 玩具・遊具など物的環境を管理しやすい」「18. 保育士が動きやすくなる」の4項目であった。ただし、このうち「9. 設定保育(主活動)等がしやすい」を除く3項目については、「今と変わらない」も40%以上であり、全

体としては保育室が今より広がったとしても、保育士の行動にはあまり影響がないと言える。

次に年齢差を調べた。有意な年齢差が見られた項目について、年齢ごとに各選択肢が選ばれた割合を示したものが図表 3-1-A-18 である。子どもの年齢が高くなるにつれて「文のようになる」が増える項目(8, 9, 12, 13, 14, 18)と減る項目(3, 4)、「文とは逆の結果」が増える項目(15)と減る項目(11)、「文のようになる」が一旦増加してその後減る項目(6, 7)、複雑な増加・減少のラインを見せる項目(5)がみられた。

図表 3-1-A-18 年齢別に見た部屋が今より広がった場合の保育士の行動に対する選択率 (%)

保育士の行動	選択肢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
3. 排泄の援助がしやすい	文のようになる	26	28	28	17	10	11
	今と変わらない	66	59	60	74	82	82
	文とは逆の結果	8	13	13	10	7	7
4. 食事の援助がしやすい	文のようになる	35	33	32	29	26	26
	今と変わらない	60	58	59	60	64	65
	文とは逆の結果	5	8	9	10	10	8
5. 睡眠の援助がしやすい	文のようになる	42	30	37	34	27	32
	今と変わらない	54	64	56	60	67	62
	文とは逆の結果	4	6	6	7	6	6
6. 清潔の援助がしやすい	文のようになる	22	25	27	26	19	19
	今と変わらない	74	68	66	68	73	74
	文とは逆の結果	4	7	6	6	7	6
7. 着脱の援助がしやすい	文のようになる	22	25	33	38	30	28
	今と変わらない	75	67	59	55	65	68
	文とは逆の結果	3	7	7	7	4	5
8. 遊びの援助がしやすい	文のようになる	47	46	53	50	56	52
	今と変わらない	45	45	40	44	38	43
	文とは逆の結果	9	9	7	5	6	6
9. 設定保育(主活動)等がしやすい	文のようになる	51	52	63	69	71	71
	今と変わらない	46	41	33	28	25	26
	文とは逆の結果	3	6	4	3	4	3
11. 保育士同士の会話がしやすい	文のようになる	5	6	5	3	5	7
	今と変わらない	77	74	80	84	84	80
	文とは逆の結果	19	20	15	13	12	12
12. 温度・湿度の管理がしやすい	文のようになる	12	14	15	19	17	16
	今と変わらない	68	66	68	64	67	67
	文とは逆の結果	20	21	18	17	16	17
13. 玩具・遊具など物的環境を管理しやすい	文のようになる	44	43	51	55	58	58
	今と変わらない	46	45	41	37	36	34
	文とは逆の結果	11	12	8	8	6	8
14. 安全管理をしやすい	文のようになる	26	26	29	31	34	33
	今と変わらない	50	52	51	50	45	54
	文とは逆の結果	24	23	20	19	21	13
15. 保育士のストレスがたまらない	文のようになる	22	24	26	25	25	25
	今と変わらない	75	70	70	72	70	70
	文とは逆の結果	3	6	4	3	4	5
18. 保育士が動きやすくなる	文のようになる	35	35	41	46	44	45
	今と変わらない	57	55	53	49	48	49
	文とは逆の結果	9	9	6	6	7	7

「保育をしていて、この保育室が広い（もつと狭い方がよい）と感じる時間帯（活動）はありますか」として、「1. はい」か「2. いいえ」で答えてもらった結果が図表3-1-A-19の第1行目である。平均して8.8%と少なかった。年齢による違いも有意ではなかった。

次に「1. ある」を選んだ保育士に、そのように感じる時間帯すべてに○を付けてもらった。その選択率が以下の数値である。年齢差を調べると、「4. 設定保育（主活動）等」「6. 排泄（オムツ交換を含む）」および「7. 睡眠」の時間帯では5%以上で有意差がみられた。「4. 設定保育（主活動）等」では、1歳から3歳にかけて選択率が増加した。「6. 排泄（オムツ交換を含む）」では2歳から3歳にかけて選択率が減少した。「7. 睡眠」では0歳から1歳

にかけて選択率が減少し、1歳から2歳にかけて再び増加、さらに2歳から3歳にかけて減少した。

先述のように狭いと感じる時間帯としての選択率（図表3-1-A-14）は、「4. 設定保育（主活動）等」では年齢が上がるにつれて増加し、「6. 排泄（オムツ交換を含む）」では一旦増加し、その後減少した。また「7. 睡眠」は、その値が0歳から1歳にかけて減少するが、1歳から2歳にかけて増加し、その後再び減少した。これに対して、今回の広いと感じる時間帯としての選択率はほぼ同様の増加、減少の傾向であった。今回は元となる保育士の数が全体の8.8%と少ないので、確たることは言えないが、これらの時間帯（活動）に適切な広さは、保育所によって異なると考えられる。

図表 3-1-A-19 この保育室が広いと感じる時間帯に対する選択率（%）

広いと感じる時間帯の有無		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	平均値
		8.3	8.8	8.2	8.2	10.1	9.3	8.8
広いと感じる時間帯	1. 登園(所)時の受け入れ	12.9	17.1	11.0	17.7	14.3	21.1	15.7
	2. 午前の遊び	35.5	23.7	41.1	35.3	21.4	26.3	30.6
	3. 午後の遊び	21.0	25.0	31.5	32.4	31.0	29.0	28.3
	4. 設定保育(主活動)等	22.6	19.7	31.5	44.1	42.9	42.1	33.8
	5. 食事(授乳を含む)	21.0	18.4	32.9	29.4	19.1	13.2	22.3
	6. 排泄(オムツ交換を含む)	24.2	25.0	23.3	5.9	0.0	2.6	13.5
	7. 睡眠	38.7	22.4	45.2	26.5	23.8	21.1	29.6
	8. 着脱	3.2	15.8	20.6	20.6	14.3	10.5	14.2
	9. 清潔(沐浴、清拭等)	14.5	11.8	9.6	17.7	4.8	7.9	11.0
	10. 延長保育時	11.3	13.2	17.8	2.9	16.7	7.9	11.6
	11. 降園(所)時の引き渡し	9.7	13.2	5.5	14.7	9.5	13.2	11.0
	12. その他	3.2	2.6	2.7	2.9	0.0	5.3	2.8

図表 3-1-A-20 は、「この保育室が今より狭くなるとすれば、子どもや保育士の行動にどのような変化が生じると思いますか」として、先と同様の3つの選択肢から選んでもらった結果について、各年齢で選択された割合を平均した値を示したものである。全体として「文のようになる」が少なく、「文とは逆の結果となる」と「今と変わらない」が多い。40%以上の値をゴチック体で示し、「文とは逆の結果となる」の高い順に並び替えた。「4. 身体的活動がしやすい」では 91%と9割以上の保育士が「文とは逆の結果となる」を選んだ。すなわち9割以上の保育士が「身体的活動がしにくくなる」と答えたことになる。75%以上の値であり、4分の3以上の保育士が「文とは逆の結果となる」を選んだ項目からは、「睡眠など適切な休息をとれなくなる」「14. 子ども同士のトラブルが多くなる」といえる。このことから、部屋が狭くなると、子どもの行動にマイナスの影響があると保育士は考えていると言えよう。

次に検定を行い、5%水準で有意差がなかったところに「ns」とつけた。16項目中、11項目では有意差はなかった。年齢差はそれほど

多くの項目では顕著に現れないといえる。

有意な年齢差が見られた項目について、年齢ごとに各選択肢が選ばれた割合を示したものが図表 3-1-A-21 である。「4. 身体的活動がしやすい」では、「今と変わらない」が0歳児より4歳児の方が少なかった。「11. 怪我が少なくなる」では、年齢が上がるにつれて、「文とは逆の結果となる」が増加した。すなわち「怪我が多くなる」と判断された。「8. 情緒が安定する」は0歳から2歳にかけて、「文とは逆の結果となる」が増加した。すなわち「情緒が不安定なる」と判断された。「7. 周囲の人やものに興味・関心をもつ」は、2歳から3歳にかけて「文とは逆の結果となる」が減少した。すなわち「周囲の人やものに興味・関心をもたなくなる」と判断された。「6. 発声、発語、会話が増える」は2歳から3歳にかけて「文とは逆の結果となる」が減少した。すなわち「発声、発語、会話が減る」と判断された。

以上の結果から、部屋が狭くなることの子どもの行動に対する影響は、3歳未満児で顕著であることがわかる。

図表 3-1-A-20 部屋が今より狭くなった場合の子どもの行動に対する選択率の平均 (%)

子どもの行動	文のようになる	今と変わらない	文とは逆の結果	年齢差
4. 身体的活動がしやすい	1	8	91	
2. 睡眠など適切な休息をとれる	1	23	76	ns
14. 子ども同士のトラブルが少なくなる	3	22	75	ns
11. 怪我が少なくなる	4	28	67	
9. 機嫌がよくなる	1	32	67	ns
8. 情緒が安定する	2	32	66	
1. 食事を楽しむようになる	1	42	57	ns
10. 集中して遊ぶようになる	4	39	57	ns
15. 保育室から出ていかない	2	44	54	ns
12. 子どもが疲れにくくなる	4	46	50	ns
5. 聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える	2	48	49	ns
3. 清潔を保つ行動が増える	1	49	49	ns
7. 周囲の人やものに興味・関心をもつ	6	62	33	
13. 子ども同士の関わりが多くなる	13	55	32	ns
6. 発声、発語、会話が増える	5	66	29	
16. 保育士への関わりが多くなる	11	63	25	ns

図表 3-1-A-21 年齢別に見た部屋が今より狭くなった場合の子どもの行動に対する選択率 (%)

子どもの行動	選択肢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
4. 身体的活動がしやすい	文のようになる	0	1	0	1	2	1
	今と変わらない	10	9	9	7	6	9
	文とは逆の結果	89	90	91	92	91	90
11. 怪我が少なくなる	文のようになる	3	4	4	5	6	5
	今と変わらない	35	32	29	27	24	25
	文とは逆の結果	62	64	68	69	70	71
8. 情緒が安定する	文のようになる	1	2	2	3	3	3
	今と変わらない	37	33	29	32	31	31
	文とは逆の結果	63	65	69	65	66	67
7. 周囲の人やものに興味・関心をもつ	文のようになる	5	4	5	9	6	6
	今と変わらない	59	61	59	64	64	62
	文とは逆の結果	36	34	35	27	30	32
6. 発声、発語、会話が増える	文のようになる	3	3	5	8	7	6
	今と変わらない	68	67	64	67	68	65
	文とは逆の結果	29	29	32	26	26	29

図表 3-1-A-22 部屋が今より狭くなった場合の保育士の行動に対する選択率の平均 (%)

保育士の行動	文のようになる	今と変わらない	文とは逆の結果	年齢差
9. 設定保育(主活動)等がしやすい	2	21	76	
8. 遊びの援助がしやすい	4	34	62	ns
18. 保育士が動きやすくなる	4	37	59	
15. 保育士のストレスがたまらない	2	41	58	ns
13. 玩具・遊具など物的環境を管理しやすい	5	39	56	
19. 保育室以外で保育する機会が少なくなる	9	36	55	
5. 睡眠の援助がしやすい	3	43	54	
14. 安全管理をしやすい	8	42	51	ns
4. 食事の援助がしやすい	4	46	50	
7. 着脱の援助がしやすい	3	48	49	
16. 保育士が疲れにくくなる	2	51	47	ns
6. 清潔の援助がしやすい	3	54	43	
17. 保育士の口調が柔らかくなる	2	59	39	ns
3. 排泄の援助がしやすい	25	58	38	
12. 温度・湿度の管理がしやすい	10	60	30	ns
10. 言葉かけがしやすい	13	62	25	ns
2. スキンシップをとりやすい	13	62	25	
11. 保育士同士の会話がしやすい	10	70	20	
1. 健康状態の把握がしやすい	11	69	20	ns

図表 3-1-A-22 は、保育士の行動に対する影響について、図表 3-1-A-20 と同様の分析を行ったものである。40%以上のゴシック体のところを見ると、全体として「文とは逆の結果」と「今と変わらない」が多いことが読み取れる。「文とは逆の結果」だけが40%以上であった5項目からは、次のように保育士が判断したと推測できる。すなわち、部屋が狭くなると「設定保育(主活動)等がしにくい(9；括弧内の数字は項目番号。以下同じ)」「遊びの援助がしにくい(8)」「保育士が動きにくくなる(18)」「玩具・遊具など物的環境を管理しにくい(13)」「保育室以外で保育をする機会が多くなる(19)」と保育士は判断したと推測できる。言い換えれば、部屋が狭くなると、これらの内容について、保育に支障が出ると保育士は考えていることになる。

次に年齢差を調べた。有意な年齢差が見られた項目について、年齢ごとに各選択肢が選ばれ

た割合を示したものが図表 3-1-A-23 である。年齢が上がるにつれて、「文とは逆の結果」が増加した項目からは、「設定保育(主活動)等がしにくい(9)」「玩具・遊具など物的環境を管理しにくい(15)」と保育士は判断したことがわかる。反対に、年齢が上がるにつれて、「文とは逆の結果」が減少した項目からは「睡眠の援助がしにくい(5)」と判断していたといえる。また2歳から4歳にかけて「文とは逆の結果」が減少した項目からは「食事の援助がしにくくなる(4)」「清潔の援助がしにくくなる(6)」「排泄の援助がしにくくなる(3)」と判断したことになる。このほか、「文とは逆の結果」が0歳から2歳にかけて増加し、その後、減少する項目(7と2)、「文とは逆の結果」が2歳だけで高い項目(18)、3歳だけで低い項目(11)、2歳から3歳で増加し、4歳から5歳で減少する項目(19)など、ある年齢に特徴が現れる項目もあった。

図表 3-1-A-23 年齢別に見た部屋が今より狭くなった場合の保育士の行動に対する選択率 (%)

保育士の行動	選択肢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
9. 設定保育(主活動)等がしやすい	文のようになる	2	2	2	2	3	3
	今と変わらない	27	26	20	21	17	17
	文とは逆の結果	71	72	78	78	80	80
18. 保育士が動きやすくなる	文のようになる	5	5	3	4	3	3
	今と変わらない	36	39	33	39	39	35
	文とは逆の結果	59	56	65	58	58	62
13. 玩具・遊具など物的環境を管理しやすい	文のようになる	4	6	5	6	6	6
	今と変わらない	42	43	38	39	34	35
	文とは逆の結果	54	51	57	55	60	59
19. 保育室以外で保育する機会が少なくなる	文のようになる	8	9	6	11	11	6
	今と変わらない	38	37	37	35	33	38
	文とは逆の結果	54	54	56	55	55	56
5. 睡眠の援助がしやすい	文のようになる	3	3	3	4	2	2
	今と変わらない	34	41	38	46	51	49
	文とは逆の結果	64	56	59	50	47	49
4. 食事の援助がしやすい	文のようになる	3	4	3	5	4	5
	今と変わらない	39	42	41	50	55	51
	文とは逆の結果	59	55	55	45	41	44
7. 着脱の援助がしやすい	文のようになる	2	5	3	4	3	3
	今と変わらない	50	46	42	45	53	51
	文とは逆の結果	48	49	55	51	44	46
6. 清潔の援助がしやすい	文のようになる	3	3	3	3	3	3
	今と変わらない	51	51	50	56	62	57
	文とは逆の結果	46	47	48	41	36	40
3. 排泄の援助がしやすい	文のようになる	24	26	30	24	23	22
	今と変わらない	51	46	46	62	72	70
	文とは逆の結果	45	47	49	32	27	27
2. スキンシップをとりやすい	文のようになる	12	14	14	12	14	10
	今と変わらない	64	60	56	64	63	68
	文とは逆の結果	24	26	30	24	23	22
11. 保育士同士の会話がしやすい	文のようになる	11	12	12	10	7	9
	今と変わらない	70	68	65	73	72	70
	文とは逆の結果	19	20	23	17	22	22

B. 床の上の備品の専有面積に関するシミュレーション

1. 目的

0歳児から2歳児までの保育室の物的環境について、Aで得られた結果とカタログを基に、実際に1人当たりどの程度の面積が専有されているのかをシミュレーションする。

2. 方法

図表 3-11 において各年齢で 50%以上の選択率の備品を調査した。個人用の備品については、図表 3-2 の定員をもとに面積を算出した。具体的には、例えば0歳児では平均 7.4 人が定員であったが、小数点以下を繰り上げて8人とした。その上で、8人分の個人用ロッカーに適当な商品の床面積を8で割ることにした。また複数人で1つの机(テーブル)などは4人で1つを想定して、8人分、すなわち2つの机の床面積を8で割って算出するものとした。

カタログとしては、2009 学研保育用品総合カタログを用いた。

3. 結果と考察

(1) 0歳児

選択率が 50%以上の備品は、「4. ベッド」「14. 机・椅子(ベビー用ラックを含む)」「3. 子どもの個人用ロッカー」「遊具の収納棚」であった。

ベッドの商品名とその床面積を示したものが図表 3-1-B-1 である。ベッドの床面積だけでは約 1.0 m²であると言えよう。

図表 3-1-B-2 は机、図表 3-1-B-3 は椅子のサイ

ズと床面積である。机では 0.2 m²、椅子では 0.1 m²といったところであろう。図表 3-1-B-3 の下半分にはテーブル付きの椅子(次頁の写真参照)のサイズと床面積を示す。これでは1人当たり 0.2 m²と考えられる。

図表 3-1-B-4 は子どもの個人用ロッカーのサイズと床面積を示したものである。ロッカー部にカバンや服を掛けられるフック付きのもので、下段に棚が上下に2つついており、1連のロッカーを左側と右側というように二人で使うようになっていた(棚は上と下で一人ずつ使う)。6人用(3連)と10人用(5連)があり、0歳児定員が8人だったので10人用(5連)を想定した。1人当たり、0.1 m²くらいが標準であると考えられる。

「遊具の収納棚」は、個人用ロッカーとは異なるものに限定した。図表 3-1-B-5 は収納棚のサイズと床面積を示したものである。0.45 m²程度であった。子どもの人数に関わるものではないが、8人を想定すると1人当たり 0.05 m²くらいと考えられる。

上記に示した0歳児における備品の床面積を合計すると 1.5 m²程度である。ただしこの値には、保育士や子どもがこのような備品を使うための移動空間を想定していない。0歳児の場合、子どもがハイハイで移動する空間を想定するべきであろう。さらにベッドの場合は、2つのベッドをくっつけて置くと、衛生上の問題も生じる(ITERSでは、午睡地に子どもと子どもの間が 90 cm以上離れていることが最低ラインである)。1.5 m²をどのように見ていくのかは今後の課題である。

図表 3-1-B-1 ベッドのサイズと床面積

商品名	幅(cm)	奥行き(cm)	床面積(m ²)
スイング式ベビーベッド はやね〜ル	106.5	70	0.7455
施設用ベビーベッドSB21	105	72	0.756
ベビーナ乳児用折りたたみベッド	124.5	78.5	0.977325
乳児用ベッド・マット付	135	79	1.0665
ワンタッチ・折りたたみベッドMK	124.6	78	0.97188
ワンタッチ・ミニ・折りたたみベッドML	95	65	0.6175

図表 3-1-B-2 机 (テーブル) のサイズと床面積

商品名	幅 (cm)	奥行き (cm)	床面積 (㎡)	想定人数	床面積/人
乳児カラーテーブル	120	60	0.72	4	0.18
ホワイトパイプテーブル	120	60	0.72	4	0.18
ハーフサークルテーブル(A9114)	152.4	76.2	1.161288	5	0.290322
乳児用デスク	120	60	0.72	4	0.18
乳児用半円形テーブル	120	60	0.72	4	0.18

図表 3-1-B-3 椅子のサイズと床面積

商品名	幅 (cm)	奥行き (cm)	床面積 (㎡)
乳幼児イスFM3	28	31	0.0868
乳幼児用木製椅子(肘付)	31.6	26	0.08216
キャラクターチェア	31	31	0.0961
スタッキングアームチェア	35.5	31.5	0.111825
くまちゃん椅子・うさちゃん椅子・ひよこちゃん椅子	32	34.5	0.1104
のびのび乳幼児用3段チェア	32.2	29.7	0.095634
ベビーチェア(J506)	33	31	0.1023
乳幼児スタッキングチェア	32	30	0.096
乳児用チェリー椅子	33	31.5	0.10395
ベビーフレンドチェア-ST	38	40	0.152
ベビーイス(テーブル付)	31	42	0.1302
木製乳児用椅子(B)	43	47	0.2021
木製乳児用椅子(A)	38	35	0.133
木製乳児用椅子・テーブル可動式	38	35	0.133
だっこイス 2型	40	42	0.168
乳児用椅子	38	40	0.152
エコ元気 MIRAIチェア	45	49	0.2205
エコ元気 MIRAIチェアミニ	37.5	35	0.13125

図表 3-1-B-4 子どもの個人用ロッカーのサイズと床面積

商品名	幅 (cm)	奥行き (cm)	床面積 (㎡)	想定人数	床面積/人
ウッドラインロッカー 10人用	172	45	0.774	10	0.09675
ソフティロッカー 10人用	176.2	42	0.74004	10	0.092505
のびのびロッカー 10人用	172	45	0.774	10	0.09675
ホワイトフック式ロッカー 10人用	159.5	42	0.6699	10	0.0837375
のびのびHi可動ロッカー 10人用	172	45	0.774	10	0.09675
のびのびベーシックロッカー 5連	172	43	0.7396	10	0.09245
のびのびコーナーウッド可動ロッカー 5連	172	43	0.7396	10	0.09245
ウッドロッカー 10人用	159.5	45	0.71775	10	0.08971875
ウッドロッカー(木地) 10人用	159.5	45	0.71775	10	0.08971875
ナチュラルウッドロッカーシリーズ 5連	172	45	0.774	10	0.09675
セレクトロッカー上段棚・下段棚	140.8	45.5	0.64064	8	0.08008

図表 3-1-B-5 収納棚のサイズと床面積

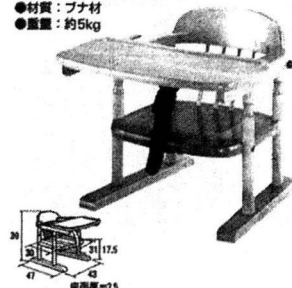
商品名	幅 (cm)	奥行き (cm)	床面積 (㎡)
ウッドラインかごつき収納棚	104	45	0.468
ウッドライン収納棚	104	45	0.468
ソフティかごつき収納棚	108.2	42	0.45444
ソフティ3段収納棚	108.2	42	0.45444
ソフティ引き出し棚	108.2	42	0.45444
のびのび整理棚	104	45	0.468
のびのびスリム引き出し棚	64	45	0.288
のびのびスリム整理棚	64	45	0.288
のびのびベーシック3段ラック	104	43	0.4472
ハイエコ引き出し棚D-0007	104	45	0.468
ハイエコ収納棚D-0009	104	45	0.468

木製乳児用椅子(B)

商品コード 価格 販売価格
60-71889-012 18,165円 17,300円

各パーツに丸みを付けて優しい雰囲気
作り上げた乳幼児用椅子です。

●材質：ブナ材
●重量：約5kg



(2) 1歳児

1歳児は0歳児と比べて、ベッドを床の上に置いている保育室が少ない。そこで上記の面積からベッドの床面積を減らすことができる。

しかしながら午睡をしないわけではない。そこで午睡用の布団として、「みんなのおひるねふとん」(商品名)のサイズを調べたところ、かけぶとんは120 cm×85 cm、しきぶとんは130 cm×70 cmで、床面積は最大で130 cm×85 cmで約1.1 m²必要であった。なお積み重ねられるベッド(「スタッキングベッド」(商品名))も床面積を算出すると、0.8 m²程度であった。これら午睡に必要な布団やスタッキングベッドを収納する場所が別にあるならば、常に床の上であり、子どもが活動するのを妨げる備品としての面積は約1 m²減らせると考えられる。

「14. 机・椅子(ベビー用ラックを含む)」についてはほぼ同じサイズと想定される。

「3. 子どもの個人用ロッカー」「遊具の収納棚」については、定員の平均値が大きい分、若干

の違いがでる可能性がある。しかしながら個人用ロッカーは1人分当たりの床面積にすればそれほど大きな違いはない。遊具の収納棚も、同じ量の遊具を収納すると考えればそれほど大きな違いはない。定員が多い分、より多くの遊具が必要であるが、一人分あたりに換算するとほぼ同じであろう。

(3) 2歳児

2歳児クラスでいつも床の上に置いてある備品は、1歳児クラスのその備品に加えて、ピアノ・オルガンが50%を超えていた。そのサイズと床面積を示したものが図表3-1-B-7である。ピアノやオルガンは、クラスの数に関わりなく、1クラスに1台であろう。そのため床面積を、子ども1人あたりに換算すると、クラスの数が多ければ多いほど、一人分当たりの床面積は小さくなる。

図表 3-1-B-7 ピアノ・オルガンのサイズと床面積

商品名	幅(cm)	奥行き(cm)	床面積(m ²)
デジタルピアノPX-720	136.9	30	0.4107
コルグデジタルピアノ C-340	139.6	46.2	0.644952
指導用オルガン EX-300DX	93	43	0.3999
教育用オルガン SO-800	96	38	0.3648

第2節 保育所の人的環境に関する実態調査・比較調査

A. 質問紙による全国調査

1. 目的

0歳児から5歳児までの保育士の数や業務にかける時間の実態や保育士の保育士数に対する意識をたずねることを目的とした。

2. 方法

調査対象、材料、手続きは第1節の物的環境に関する実態調査・比較調査と同じである。本節では、人的環境（保育士）についてたずねた結果を報告する。

人的環境（保育士）についてたずねるパートは、7つの設問で構成した。Q1では1日の内で忙しいと感じる活動をたずねた。Q2では保育士がもっと多い方がよいと感じる活動の有無と、ある場合、その時間帯をたずねた。Q3では保育士の数が今より多くなるとすれば子どもの行動や保育士の行動に生じる変化についてたずねた。Q4では保育士がもっと少ない方がよいと感じる活動の有無と、ある場合、その時間帯をたずねた。Q5では保育士の数が今より少なくなるとすれば子どもの行動や保育士の行動に生じる変化についてたずねた。Q6では担当しているクラスの保育士の人数に対する考えをたずねた。Q7では園内の業務にどの程度時間をかけているかをたずねた。

(1) 保育所における人的環境の実態

先に、図表 3-1-A-4 で示した各年齢の保育士数は、各年齢の担当者の数であった。すなわち、例えば、0歳児から2歳児の担当で2人や、4歳

児と5歳児を1人の保育士で担当している場合などは、計算から除外されていた。そこで図表 3-1-A-3 の各年齢の値をそのまま図表 3-1-A-4 の各年齢の値で割ることは、子どもと保育士の人数比を過小評価してしまう可能性がある。そこで、上記のような複数年齢を合同で担当していた保育士の数を各年齢に割り振ることを考えた。

図表 3-2-A-1 は児童福祉施設最低基準第33条に定められている保育士の数を示したものである。「おおむね」という表現がとられているので、確たる値ではないが、この値を根拠にして、上記のように、複数年齢を合同で担当している保育士の数を各年齢に割り振ることにした。

割り振り方としては次の手順を考えた。例えば、0歳児（乳児）の場合、子ども3人に対して保育士は1人である。これに対して、1歳児の場合は子ども6人に対して保育士は1人である。この比率を考えると、0歳児は1歳児の2倍の保育士が必要となる。そこで、0歳児と1歳児を合同で、保育士が1人で担当している場合、0歳児に0.67人、1歳児に0.33人を割り振ることにした。このような基準で0歳児と1歳児を合同、0歳児から2歳児までを合同、1歳児と2歳児を合同、2歳児と3歳児を合同、3歳児と4歳児を合同、4歳児と5歳児を合同、3歳児から5歳児までを合同で、保育士が1人で担当した場合に、各年齢に割り振られる比率を示したものが表 4-2-A-2 である。この表に基づいて、各年齢を担当する保育士の数を算出しておいたものが表 4-2-A-3 である。小数点が入るので、0人以上1人未満、1人以上2人未満という形で、該当する人数を割り振り、割合（%）を示した

図表 3-2-A-1 子どもと保育士の人数比

	おおむね
0歳	3 : 1
1歳	6 : 1
2歳	6 : 1
3歳	20 : 1
4歳	30 : 1
5歳	30 : 1

(児童福祉施設最低基準第33条)

図表 3-2-A-2 人数比に基づく想定人数

1人で担当する年齢	人数の想定
0-1歳児を1人で担当	0歳児0.67人、1歳児0.33人
0-2歳児を1人で担当	0歳児0.5人、1歳児0.25人、2歳児0.25人
1-2歳児を1人で担当	1歳児と2歳児は共に0.5人
2-3歳児を1人で担当	2歳児0.77人、3歳児0.23人
3-4歳児を1人で担当	3歳児0.6人、4歳児0.4人
4-5歳児を1人で担当	4歳児と5歳児は共に0.5人
3-5歳児を1人で担当	3歳児0.428人、4歳児と5歳児は共に0.286人

図表 3-2-A-3 想定された各年齢を担当している保育士の数の割合 (%)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
0-1	4.0	8.7	5.5	7.0	11.9	9.0
1-2	18.4	18.2	13.9	36.7	47.7	51.5
2-3	31.6	19.9	22.8	42.3	32.9	34.3
3-4	22.3	26.5	26.7	9.4	5.6	4.0
4-5	13.0	14.3	19.2	3.4	1.5	0.7
5-7	9.3	10.7	9.6	1.2	0.5	0.5
7-9	1.1	1.5	1.9	-	-	-
9-	0.3	0.2	0.2	-	-	-

0歳児では2人以上3人未満が最も多く、次いで3人以上4人未満が多かった。このことは0歳児を担当する保育士が2人から3人の程度であることを示すものである。1歳児と2歳児では3人以上4人未満が最も多く、次いで2人以上3人未満であった。このことは1歳児や2歳児を担当する保育士が、3人ないし2人程度であることを示している。3歳児の担当は2人以上3人未満が最も多く、次いで1人以上2人未満であった。3歳児は2人ないし1人で担当していると考えられる。4歳児と5歳児では1人以上2人未満が最も多く、次いで2人以上3人未満であった。このことは4歳児や5歳児を担当する保育士は1人である場合が多く、多くても2人であることを示している。

このように各年齢を担当する保育士の数を想定し、各年齢に在籍する子どもの数をこの保育士数で割ってみた。その値の分布を示したものが図表 3-2-A-4 である。子どもと保育士の人数

比である。値が整数とは限らないので、例えば、0歳児であれば、0以上1未満、1以上2未満、2以上3未満、3.0 丁度、3以上に区分し、その割合 (%) を示した。

最も割合が高かったところを見ると、0歳児では2人以上3人未満、1歳児では4以上5未満、2歳児では5以上6未満、3歳児、4歳児および5歳児では10以上15未満が最も割合が高かった。児童福祉施設最低基準に示されている割合の丁度の値は、どの年齢でも、それほど高くなかった。

すべての年齢で、最低基準を超えた比になっていた保育所があった。すなわち、0歳児では6.1%が3:1を、1歳児と2歳児ではそれぞれ13.4%と22.3%が6:1を、3歳児では3.4%が20:1を、4歳児と5歳児ではそれぞれ2.0%と2.3%が30:1を超えていた。年齢間を比較すると、基準を超えていた割合は、2歳児が最も高かった。

図表 3-2-A-4 各年齢における子どもと保育士の人数比の割合 (%)

範囲	0歳児	範囲	1歳児	2歳児	範囲	3歳児	範囲	4歳児	5歳児
0-1	7.6	0-1	0.2	0.2	0-5	3.9	0-5	2.2	2.5
1-2	16.7	1-2	1.2	1.0	5-10	26.7	5-10	14.0	11.9
2-3	47.4	2-3	6.4	2.2	10-15	45.2	10-15	33.2	29.5
3	22.2	3-4	16.6	3.9	15-20	17.6	15-20	26.5	25.8
>3	6.1	4-5	31.9	15.8	20	3.2	20-25	14.7	17.4
		5-6	22.8	33.7	>20	3.4	25-30	6.6	10.1
		6	7.4	20.9			30	0.7	0.3
		>6	13.4	22.3			>30	2.0	2.5

(2) 保育士の数に対する保育士の認知

「1日のうちで、あなたが特に「忙しい」と感じる活動はどれですか。3つ選んで下さい」として、様々な時間帯の活動を並べた。各年齢を担当する保育士が選んだ割合（選択率）の平均値が高い順に、その割合を示したものが図表 3-2-A-5 である。最も割合が高かった活動は、「7. 食事（授乳を含む）の援助」であり、6割近い保育士がこれを選んだ。次いで割合が高かったのは、「14. 連絡帳の記入など記録」であり約3割であった。この2つの活動に共通することは、個別対応でありながら、一人一人にかかる時間が異なることである。予定の立ちにくさが「忙しさ」を感じさせるのであろう。

反対に割合が低かった活動は、「8. おやつ（の援助）」「18. 降園（所）後の掃除・片づけ」「13. 延長保育への引き継ぎ」「5. 午後の遊び」「1. 登園（所）前の掃除・片づけ」であり、いずれも10%未満であった。

興味深かったのは、登園（所）時と降園（所）時の子ども対応と保護者対応である。子ども対応

では登園（所）時の方が降園（所）時よりも選択率が高く、保護者対応では反対に降園（所）時の方が登園（所）時よりも選択率が高かった。登園（所）時と降園（所）時では、保育士が主として対応する相手が異なるのであろう。

年齢差を検定すると、「13. 延長保育への引き継ぎ」と「1. 登園（所）前の掃除・片づけ」の2つの項目を除いて、すべて有意差があった。多くの項目で年齢差が有意であったことから、保育士にとって「忙しい」活動は、子どもの年齢に依存するといえる。有意差がなかった2つの項目は、この図表にあるように、全体の選択率も低く、床効果も疑われた。

年齢差を詳しく見ると、年齢が上がるにつれて選択率が下降する活動（例えば、「7. 食事（授乳を含む）の援助」）、逆に年齢が上がるにつれて選択率が上昇する活動（例えば、「6. 設定保育（主活動）等」）、特定の年齢で選択率が上がる活動（例えば、「10. 排泄の援助」）、逆に特定の年齢で選択率が下がる活動（例えば、「14. 連絡帳の記入など記録」）があった。

図表 3-2-A-5 「忙しい」活動の選択率（%）

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	平均値
7. 食事(授乳を含む)の援助	82.1	74.2	57.3	58.3	41.7	37.8	58.6
14. 連絡帳の記入など記録	26.3	18.7	28.0	32.3	38.8	43.3	31.3
17. 保育中の掃除・片づけ	21.5	19.9	17.9	27.2	34.1	32.5	25.5
10. 排泄の援助	27.3	50.8	51.3	18.5	3.8	1.4	25.5
2. 登園(所)時の子ども対応	16.7	17.0	26.4	29.5	30.6	21.8	23.7
11. 着脱の援助	14.1	33.0	40.0	29.3	9.2	2.9	21.4
6. 設定保育(主活動)等	7.1	9.8	12.4	23.2	30.1	35.4	19.7
16. 降園(所)時の保護者対応	10.4	11.8	13.0	24.6	25.7	29.4	19.1
3. 登園(所)時の保護者対応	9.8	10.4	14.9	15.7	22.4	19.9	15.5
12. 清潔(沐浴、清拭等)面の援助	26.7	20.8	17.0	12.7	6.4	7.7	15.2
9. 睡眠の援助	20.7	10.5	10.7	15.2	12.7	8.1	13.0
15. 降園(所)時の子ども対応	7.3	6.8	9.1	16.6	15.8	17.7	12.2
4. 午前の遊び	7.6	9.2	9.8	13.1	12.9	12.2	10.8
8. おやつ(の援助)	12.8	7.7	4.0	6.6	3.5	3.6	6.4
18. 降園(所)後の掃除・片づけ	4.3	3.7	4.1	6.3	7.5	7.7	5.6
13. 延長保育への引き継ぎ	5.2	4.1	4.6	4.7	5.7	7.2	5.2
5. 午後の遊び	2.1	3.8	2.1	4.7	6.1	5.3	4.0
1. 登園(所)前の掃除・片づけ	4.3	4.7	3.3	2.1	4.2	3.6	3.7
19. その他	3.1	4.8	4.8	7.7	8.9	10.5	6.7

「あなたが、保育士がもっと多い方がよいと感じる活動はありますか」と問い、「はい」か「いいえ」で答えてもらい、「はい」を選んだ保育士にそのように感じる活動のすべてに○を付けてもらった。その結果を示したものが図表 3-2-A-6 である。活動の有無は最上位行、そのように感じる活動がある場合は、その活動の選択率の平均値が高い順に示している。

活動の有無について、どの年齢でも約 65%、3分の2の保育士が、「保育士がもっと多い方がよいと感じる活動」があると答えた。年齢差は有意ではなかった。「保育士がもっと多い方がよい」を「保育士が不足している」と考えるならば、全体の3分の2の保育士は、保育士不足を認識しているといえる。

次のどのような活動でそのように感じるのかに注目する。選択率が最も高かったのは、「7. 食事(授乳を含む)の援助」であり、「6. 設定保育(主活動)等」と「10. 排泄の援助」も30%を超えていた。「7. 食事(授乳を含む)の援助」については、先の忙しい活動でも最上位であり、「忙しい」から「保育士がもっと多い方がよい」という因果関係が想定される。「6. 設定保育(主活動)等」と「10. 排泄の援助」は図表 3-2-A-5 ではそれぞれ7位と4位であり、特に「6. 設定保育

(主活動)等」のその図表での選択率は20%以下であるなど、「忙しい」から「保育士がもっと多い方がよい」という直接的な因果関係は考えがたい。

「6. 設定保育(主活動)等」は、子どもにこんなことも経験させたい、「10. 排泄の援助」は、もっと保育士がいればいけないに関われるのに、などという活動の充実を求める気持ちにより選択されたのかもしれない。

年齢差については4つの活動を除いて有意差があった。年齢差がなかった4つの活動は、「14. 連絡帳の記入など記録」「3. 登園(所)時の保護者対応」「4. 午前の遊び」および「1. 登園(所)前の掃除・片付け」であった。

年齢差が有意であった活動には、年齢と共に選択率が下降する活動、上昇する活動、0歳児が低く、1歳児で高くなるが、その後下降する活動、上昇や下降を繰り返す活動が見られた。このことは、活動によって保育士の関わりが大きく異なることが原因であろう。保育士の専門性の中には、様々な活動を、子どもの年齢に応じて展開することが含まれるといえる。

年齢差がなかった活動をみると、忙しい活動の選択率で年齢差がなかった活動と全く異なっていた。忙しさの認知と保育士不足感は独立しているといえる。

図表 3-2-A-6 保育士不足を感じる活動の有無とその活動の選択率 (%)

不足を感じる活動の有無		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	平均値
		64.8	67.2	66.4	66.6	64.1	64.8	65.6
保育士不足と感じる活動	7. 食事(授乳を含む)の援助	81.3	69.0	51.3	50.2	36.7	29.0	52.9
	6. 設定保育(主活動)等	19.4	23.4	25.1	37.1	42.1	39.4	31.1
	10. 排泄の援助	28.0	50.5	46.7	30.2	16.7	7.7	30.0
	17. 保育中の掃除・片づけ	25.5	25.7	23.8	31.6	38.6	34.4	29.9
	2. 登園(所)時の子ども対応	25.5	24.7	33.0	28.4	34.1	29.3	29.2
	11. 着脱の援助	25.7	41.9	41.2	32.0	14.0	5.0	26.6
	14. 連絡帳の記入など記録	21.5	23.2	26.3	22.9	25.0	27.8	24.5
	3. 登園(所)時の保護者対応	21.7	20.3	24.6	22.2	26.5	27.4	23.8
	16. 降園(所)時の保護者対応	17.1	18.3	24.1	25.1	27.3	30.1	23.7
	12. 清潔(沐浴、清拭等)面の援助	37.3	34.5	25.6	20.4	12.5	11.2	23.6
	4. 午前の遊び	22.5	23.6	22.7	22.9	24.6	23.9	23.4
	9. 睡眠の援助	33.5	17.1	16.6	22.6	23.9	17.8	21.9
	15. 降園(所)時の子ども対応	16.6	14.8	19.0	24.4	26.1	21.6	20.4
	5. 午後の遊び	10.5	14.4	15.2	17.1	20.1	17.4	15.8
	18. 降園(所)後の掃除・片づけ	8.2	7.8	8.9	13.5	16.3	16.6	11.9
	8. おやつへの援助	21.9	15.3	7.9	12.4	5.7	3.5	11.1
	13. 延長保育への引き継ぎ	7.2	7.9	11.8	9.8	8.7	15.8	10.2
	1. 登園(所)前の掃除・片づけ	6.5	6.7	6.8	4.7	6.8	10.4	7.0
	19. その他	4.6	4.6	5.5	6.9	8.7	10.4	6.8

「保育士の数が今より多くなるとすれば、子どもや保育士の行動にどのような変化が生じると思いますか」として、各項目について「今よりも以下の文のようになる：+1」「今と変わらない：0」「むしろ以下の文とは逆の結果となる：-1」から選んでもらった。図表 3-2-A-7 は、子どもの行動について、各年齢で選択された割合を平均した値を示したものである。40%以上の値をゴシック体で示し、「文のようになる」の高い順に並び替えた。

「文のようになる」の選択率が最も高かったのは「16. 保育士への関わりが多くなる」であり、続いて「11. 怪我が少なくなる」「6. 発声、発語、会話が增える」であった。選択率が 60%を超え、「文のようになる」の数値だけがゴシック体の項目には、このほかに「8. 情緒が安定する」「5. 聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える」「4. 身体的活動がしやすい」があった。

部屋が広がった場合と大きく異なることがわかる。部屋の広さ（物的環境）と保育士の数（人的環境）は、独立に子どもの行動に影響するといえる。

反対に「文のようになる」が少なく、「今と変わらない」の数値だけがゴシック体になっている項目には、「12. 子どもが疲れにくくなる」「13. 子ども同士の関わりが多くなる」「15. 保育室から出て行かない」の3項目があった。これらは保育士の数とは関係しない子どもの行動であるといえる。

次に6（年齢）×3（選択肢）のカイ自乗検定を行った。結果が有意（ $p>.05$ ）でなかった項目に ns とつけた。最も「文のようになる」が多かった「16. 保育士への関わりが多くなる」は年齢による違いが有意ではなかった。この項目は、いずれの年齢でも保育士の数が子どもの行動に大きな影響を与えるといえる。

図表 3-2-A-7 保育士の数が今より多くなった場合の子どもの行動に対する選択率の平均 (%)

子どもの行動	文のようになる	今と変わらない	文とは逆の結果	年齢差
16. 保育士への関わりが多くなる	77	22	1	ns
11. 怪我が少なくなる	69	29	2	
6. 発声、発語、会話が增える	69	30	1	
8. 情緒が安定する	67	31	2	
5. 聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える	62	37	1	
4. 身体的活動がしやすい	61	37	2	
3. 清潔を保つ行動が増える	59	40	1	
1. 食事を楽しむようになる	58	40	2	
14. 子ども同士のトラブルが少なくなる	57	40	2	
7. 周囲の人やものに興味・関心をもつ	56	43	1	
9. 機嫌がよくなる	54	44	2	
2. 睡眠など適切な休息をとれる	47	51	2	
10. 集中して遊ぶようになる	45	53	3	ns
15. 保育室から出て行かない	38	60	2	
13. 子ども同士の関わりが多くなる	30	61	9	ns
12. 子どもが疲れにくくなる	25	73	2	